

世界経済の現状と展望

中田 勝 紀

目 次

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 世界経済の概観 | 4. 欧州の状況 |
| 2. 中国経済の状況 | 5. G20の課題と議論 |
| 3. 米国経済の状況 | |

1. 世界経済の概観

19年1月に公表されたIMFの世界経済の成長率見通しは、18年3.7%、19年3.5%、20年3.6%であった。1年前の18年1月時点でのIMF見通しは、18年、19年ともに3.9%だったので、ちょっと弱めになっている。先行きは、欧州を主因に、世界経済はやや減速する見通しである。ただし、欧州以外の見通しはあまり変わらない。中国は足元やや弱めの動きがみられるが、所得倍増計画を達成する上で必要な6.2%程度の成長は見込まれる。米国は18年のようなハイペースからは減速はするが、IMF見通しは、19年は2.5%としている。新興国の多くは上向いている。

全体観をみると、これまで世界経済は比較的好

調だったが、これを支えてきた製造業の業況感が悪化してきている。図表1をみると、製造業のPMIは、18年初くらいをピークに下がっている。これが輸出受注にも影響しており、輸出受注PMIは多くの地域で既に50を割り込んでいる。こうした製造業の業況感悪化の背景は、一つは、17年、18年の山がかなり高かったことで、ペースダウンは避けられないということ、もう一つは、ITサイクルの影響である。製造業PMIの山が高かった時期は、スマートフォン（以下、スマホ）の新しい機種に向けての作り込みが始まっており、部品メーカーを含めて生産が盛り上がっていた。その後、米中の貿易摩擦により先行きに対する不安感が高まり、業況感を下押しした。これに加えて、欧州で導入された自動車に対する新しい排ガス規制の



中田 勝紀（なかた よしのり）

日本銀行 国際局長。1988年東京大学法学部卒業、日本銀行入行。98年国際決済銀行へ出向、2002年金融市場局調査役、05年金融機構局企画役、08年国際局企画役 兼 企画局企画役、09年国際局参事役 兼 企画局参事役、13年鹿児島支店長、15年金融市場局審議役 兼 国際局審議役、16年国際局審議役 兼 企画局審議役 兼 市場局審議役。17年4月、国際局審議役 兼 企画局審議役を経て、同年6月より現職。

（本稿は2019年3月20日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である）